回覧

こすもスマイル

64 号　発行：小林市立病院　地域医療連携室　令和5年 12 月

～看護部長のあいさつ～

気象庁が統計を取り始めてから 125 年目の今年は、記録的な猛暑と豪雨で終わりました。異常気象のためでしょうか、年々春と秋が短くなっているように感じます。

今年度、看護部には、新たにクリティカルケア認定看護師と感染管理認定看護師がそれぞれ 1 名ずつ誕生しました。今夏は、新型コロナウイルス感染症だけでなくインフルエンザの流行もあり、2 名の感染管理認定看護師が活動してくれることは心強い限りです。新型コロナウイルス感染症は 5 類に移行しましたが、引き続き感染拡大防止のため面会制限は継続中です。患者さんとご家族にはご不自由をおかけしていますが、ご理解とご協力に感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行で、今年は 4 年ぶりに日本看護管理学会学術集会に参加することができました。学会場のいたるところで耳にした「心理的安全性」が、現在の看護現場でのキーワードのようです。これは、ビジネスシーンにおける心理学の用語で、組織の中で自分の考えや気持ちを誰に対してでも安心して発言できる状態のことです。心理的安全性の高い組織は、①話しやすさ、②助け合い、③挑戦、④新奇歓迎の 4 つの因子から成り立ち、メンバーそれぞれのパフォーマンスの向上を期待するものです。

院内スタッフの約半数である 100 名をまとめることは簡単なことではないのですが、心理的安全性を担保することは大切なことだと感じます。個々の違いを受け入れ、認め合い、生かす「ダイバーシティ＆インクルージョン（Diversity ＆ Inclusion）」という概念も取り入れ、看護部スタッフだけでなく院内スタッフ全員が、安心して楽しく働ける職場づくりが必要であると改めて思いました。

小林市立病院 看護部長　武田　愛

【理　念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します

◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します

◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します

◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します

◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します

救急科・総合診療科紹介

当院に救急の常勤医として赴任し、早２年が経ちました。新型コロナウイルス感染症の流行とほぼ同時であった事もあり各方面にご挨拶もできないままでしたが、本年度からは常勤医が１名増員になり月平均 140 名（病院全体としては 270 名；西諸全域の約 60%）の救急対応を維持しております。２名体制になったことで各科のバックアップができるようになり、今までの宮崎大学医学部附属病院の救急科医師による日勤帯のサポート、当院の常勤医（外科・整形外科・泌尿器科）および非常勤医師による夜間帯のサポートに加え、救急専門医あるいは専攻医による途切れのない救急対応が可能となりつつあります。

ただし誤解を招かれぬよう申しておきますと、西諸県医療圏の最後の砦としての位置づけから、軽症にも 24 時間対応するというわけではありません。救急隊や医療施設とも連携を密に取り応需の適正化を図ることで、重症・中等症の比率は 20% 近くと同レベルの病床数の病院より高くなっております。救急車の利用もふくめ適正利用をお願いします。またご存知のとおり当院には内科医が不在のため、内科的慢性病に対する対応は他院にお願いせざるを得ない事をご了承ください。

救急科・総合診療科科長　遠藤　穣治

外来紹介

今年も残りあとわずか、12 月に入りクリスマスのイルミネーションが街を彩る季節となりました。外来看護師 16 名は、寒さにも負けず、逆にその寒さを楽しみながら、日々最善の看護が提供できるように努力しています。

今回は、外来看護師のチーム編成と取り組み内容について紹介します。

★教育チーム

当院は、救急告示病院および第二次救急医療機関で西諸管内の救急医療を担っています。医師や多職種とともに ER レクチャーや症例の振り返りを行い、日々自己研鑽に努めています。　（ER＝Emergency Room：救急治療室）

★在宅支援チーム

私たちは退院時に開催されるカンファレンスに参加し、入退院支援看護師と協力しながら、患者さんが自宅でその人らしい生活が送れるよう支援する活動をしています。病気のことだけに限らず、自宅で過ごす際にお困りのことがありましたら、気軽に看護師に声をかけてください。

★5S チーム

5S とは、整理・整頓・清掃・清潔・しつけの S から始まる総称で、職場環境の改善や維持のために用いられます。私たちは毎週定期的に活動し、患者さんが安全に気持ちよく受診できるように、日々環境整備に取り組んでいます。

外来看護師長　橋爪　由美

薬剤室紹介

小林市立病院の薬剤室は、「一人一人の患者さんにとって最善の薬物治療を提供する」を理念に取り組んでいます。薬剤師の専門的な知識と技術を生かし効率化を意識した主体性のある業務を行い、患者さんに迅速かつ正確な医療を提供できるよう体制を整えています。

医療は多職種での協働が必須であり、医師、看護師をはじめ、他の医療スタッフと積極的に連携を進めています。また、院内だけでなく地域の医療機関との連携も不可欠です。近隣の病院や保険薬局と地域全体で切れ目のない情報共有体制を構築することで、より良い医療の提供を目指しています。

皆さんは、DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉をご存知でしょうか？これは、デジタル技術によって社会や生活のスタイルを変えることとされています。医療分野においても「医療 DX」としてトランスフォーメーションが起きようとしています。環境の変化には柔軟に対応していく必要があるでしょう。DX のような大きな変化ではありませんが、日常業務に常に改善点がないか検証し、新しい情報を取り入れ進化し続けていくことを心がけています。

最近の薬に関連する話題として、一部で報道されている医薬品の供給不足があります。薬剤室では、不足している薬剤の確保や代替薬の提案を行うことによって薬物治療が継続して受けられるよう対応しています。そのような薬の情報提供はもちろん、患者さんやその家族が薬について抱える不安や疑問にも対応しています。薬の専門家として、患者さんが安心して治療を受けられるようサポートしますので、薬に関する質問や疑問、副作用の心配など、何でもお気軽に薬剤師にご相談ください。

薬剤室室長　石橋　直哉

西諸華道連盟の皆様から、お花を飾っていただいています。
いつも、ありがとうございます。

検査室紹介

当院の検査室は、５名の臨床検査技師が従事しています。あまり患者さんの表に出ない職種ですが、近年のコロナ禍でメディアで話題になり少し認知度も上がりました。

今回は、足の親指が突然赤く腫れ激痛を伴い、風が吹いただけでも痛いといわれる『痛風』についてお話しします。

痛風の原因は、過剰の“尿酸”が関節で結晶化して炎症をおこしている状態です。尿酸って何？と思われますが、人が生きていくために必要なエネルギーやDNAなどの原料となるプリン体が体内で使われて廃棄される形となったものです。プリン体は食事からの摂取と肝臓での合成で賄われますが、廃棄物となった尿酸は血液に溶け込んで尿から排泄されます。しかし、排泄される量より多いプリン体が尿酸へ変わると、血液から染み出て関節等で結晶化します。このように、結晶の蓄積と炎症により痛風が完成されます。

血液中の尿酸値が7.0㎎/dlを超えたら高い状態です。痛風が起きなくても、動脈硬化を進行させるリスクがあります。受診や検診の際、尿酸の数値を是非ご確認いただき生活習慣の見直しにつなげてみましょう。

私たち検査室は、チーム医療の一員としてこれからも迅速で質の高い医療と患者さんに寄り添い、安心・信頼される医療の提供を目指し日々の業務に取り組んでいきます。

検査室検査技師　　野口　美香

スタッフのひとこと

今年も瞬く間に過ぎていき、最後の月になりました。街角には、シクラメンやポインセチアなど並び始め、クリスマスシーズンが到来しました。

院内エントラスにも、西諸華道連盟の方から四季折々の生け花を添えて頂いています。患者さんやご家族から「素敵なお花ですね」と声をかけられたり、熱心にお花をご覧になっている方もいらっしゃり、一息できる癒しの空間になっているようです。

来年も、平穏な年であることを願います。

入退院調整看護師　久土　和子

連絡先

小林市立病院　地域医療連携室

TEL　0984-23-8225（直通）
FAX　0984-23-8226
Mail　k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp